

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 25 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320128

研究課題名(和文) 実データ(史資料)に基づく海域アジア交流ネットワークの時空間分析

研究課題名(英文) Spatiotemporal Analysis on Maritime Exchange Network using the Records and Documents

研究代表者

柴山 守 (SHIBAYAMA, Mamoru)

京都大学・地域研究統合情報センター・研究員

研究者番号：10162645

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円、(間接経費) 3,990,000円

研究成果の概要(和文)：実データ(史資料)にもとづき「海域アジア」という視座から東南アジア・東アジアの交易網を俯瞰し、海域交流ネットワークのダイナミズムを探る。17世紀～20世紀に至る唐船記録と交易品資料、15世紀以降の琉球外交文書マッピングにおいて、暹羅、琉球、中国、日本の交易関係が明らかになり、中国海関統計資料、アジア貿易圏と華人世界の研究が進んだ。東・東南アジアの交易網の研究は、東南アジア大陸部における文化交流・交易網の研究に発展し、「東西回廊」研究として引き継いでいる。

研究成果の概要(英文)：A study aims to understand the trade network of Southeast Asia and East Asia from the view point of "Maritime Asia" based on data such as historical documents and records, and explores the dynamism of maritime exchange network. In mapping of the Ryukyu diplomatic-documents in the 15 century to 19 century and Tosen records from the 17 century to the 20 century with data of trade articles, trading network and relationship between Siam, Ryukyu, and China were cleared. Moreover, research in pre-modern tax situation on statistical materials in China, and Asian trading behavior with Chinese human network progressed. It has been continued as studies on "East-West Corridor" research.

研究分野：史学

科研費の分科・細目：史学一般・文化交流史

キーワード：海域アジア 東南アジア 唐人貿易 対外関係史 東西回廊

1. 研究開始当初の背景

最近の海域史研究では、(1)商品・生産、商人・商業・交易ネットワークなど貿易史・経済史、(2)外交システム、官吏・軍人などの政治・外交史、(3)港町、海域・海民、海賊などの社会史、(4)文化・宗教・技術の伝播など文化史、(5)地域や国を超えた地域など地域史など多様な研究が、実体的関係・交流だけでなく、自己認識と他者イメージ、海域ネットワークの世界観、表象・言説などにも進み、歴史学の方法論全体を刷新する潜在性に満ちている[桃木至朗編、『海域アジア入門』]。従来の海域史研究は、例えば日本史理解のための外交史である“海域史”という視点であったが、アジアという域の中で日本を眺望する視点、つまり「海域アジア」の視座の重要性を指摘した[同掲書]。こうした指摘は、先行研究の蓄積を表すものであり、多くの研究者が多岐・多様な一次資料や関連史料の解読、実地調査などを行って、伝統的な歴史学の方法論にもとづき、新たな海域世界、海域アジア史観を構想する研究を進めてきた。

一方、地理情報科学 (Geographical 地理情報科学 (Geographical Information Science : GISci、地理情報システム GIS と区別する) や歴史 GIS(Historical GIS : 歴史史料や諸事象を、事象・位置・時間要素で GIS-地理情報システム上に展開して俯瞰する研究手法) などの情報学も進展し、歴史学における発見的な研究手法としての試論も展開されるに至っている。情報学の研究手法が、海域世界、とりわけ海域アジア史観を構想するに際して、既存の記録資料、集成資料、研究成果など膨大な資料群が GISci、歴史 GIS にもとづく時空間 (位置と時間からなる 3 次元空間) で多重化してマッピングされることで、従来の歴史学研究の方法では得られなかった実データ間の関係 (実体的関係)、歴史事象間 (例えば、華人・華商ネットワークやアジア圏など) の関係の可視化が実現され、相関的な因果関係などの俯瞰が可能になり、時空間の通時的分析から新たな知見が得られる機会になる。そして従来の通説や仮説との比較・検討への可能性を拓くのではないかと、

これが本研究の背景である。

2. 研究の目的

主に 17 世紀～20 世紀に至る唐船に関する諸記録と交易品資料、琉球外交文書、中国海関統計資料、陶磁器発掘考古資料、近世貿易関係係数資料、華人・華商ネットワークなどの史料や研究成果から提示される中国、日本、朝鮮、台湾、トンキン、暹羅など東・東南アジアを対象にした実データ (12 資料) を“歴史 GIS”研究手法により時空間の視点で重層化して、「海域アジア」という視座から俯瞰し、海域交流ネットワークのダイナミズムを探る。実データのマッピング及び分析では、歴史観など計量不可能な記述・論述的情報ともリンクして可視化を試み、GIS 空間分析や時空間ネットワーク分析を行う。これらの通時的分析によって、従来の通説や仮説の比較・検証と比較・検討の可能性を探る。したがって、本研究は、伝統的な歴史学研究手法とは異なる新たな実証的・試論的研究である。

3. 研究の方法

本研究では、「海域アジア」の視座から (1)17 世紀初期の朱印船貿易、17～18 世紀のジャンク船によるアジア諸国間貿易、19～20 世紀の華僑・華人ネットワークと華僑経済圏におけるヒト・モノ・カネの実体的関係を史料、研究成果をもとにして計量可能な属性をもつ実データと、計量不可能な記述・論述的性格をもつ事象関係のリンク・参照関係を考慮しながら、時空間上に重層化してマッピングし、可視化する。(2)時空間 (事象、位置、時間から 3 次元空間) 上へのマッピングには、双方向性やネットワーク性に注目して空間分析・ネットワーク分析、及び通時的分析を行う。分析や解析の手法には歴史 GIS を用い、時空間解析ツール HuTime、HuMap などを用いる。(3)通時的分析や事象間の特徴を抽出し、これまでの仮説や通説との比較・検討を行い、新たな知識の発見への可能性を探る。

本研究で対象とするデータは、前述の主に 17 世

紀～20 世紀に至る唐船に関する諸記録と交易品資料、14 世紀から 19 世紀に至る琉球外交文書、その他、近世中国海関統計資料、陶磁器発掘考古資料、近世貿易関係係数資料など史資料を対象として GIS 上に交易品と輸送貿易船、華人商人と華人ネットワーク、中国、長崎、東京、暹羅を中心とした港町、貿易都市地域、住民居住地域、関連国などの位置や領域をマッピングして、可視化する。その際、位置と時間の相互関係を定規としながら、商人、交易品、貿易船毎の計量的情報と記述・論述的情報を関連づけて重層化する。華人・華商ネットワーク分析を計量分析、GIS 空間分析的に行い、実体関係を俯瞰する。その後、本データのベースとなった史資料と比較・検討し、通説や仮説との相違や検証を行う。

4. 研究成果

(1) 中世・近世海域アジア交流では、中国、タイ、琉球、日本の関係に焦点をあてモノのくうごき>については、蘇木（心材を「すおう」と呼ぶ）を中心に交易の実態をさぐる研究を進めた。その理由は、蘇木は染料や薬種と原料としてもちいられたことから、

(1) 琉球王国の琉球船による交易—15 世紀から 16 世紀後半、(2) 朱印船による交易—17 世紀前半、(3) 唐船と唐人による交易—17 世紀初頭から 19 世紀中頃後述する 3 つの時代区分のすべての時代に共通した交易品として出現する。特に、琉球船とモノのくうごき>に注目し、琉球王国の明に対する朝貢貿易と蘇木の役割、蘇木を介した交易ネットワーク、暹羅国におけるアヌタヤ朝の「官売貿易」制度を参照しながら、交易・交流ネットワークを中世から近世に至る時間軸上で時代の変遷と諸事象をよむための諸資料を重ねあわせ、相互の関連を時間解析ツール HuTime で分析した。本分析のソースは、琉球王国の琉球船による交易—15 世紀から 16 世紀後半が対象であり、『歴代宝案』に記述される琉球国が暹羅国間に送付した咨文と執照である（図 1 参照）。

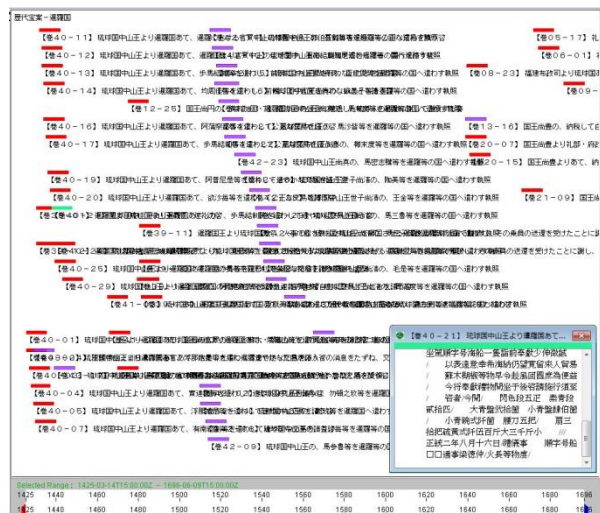
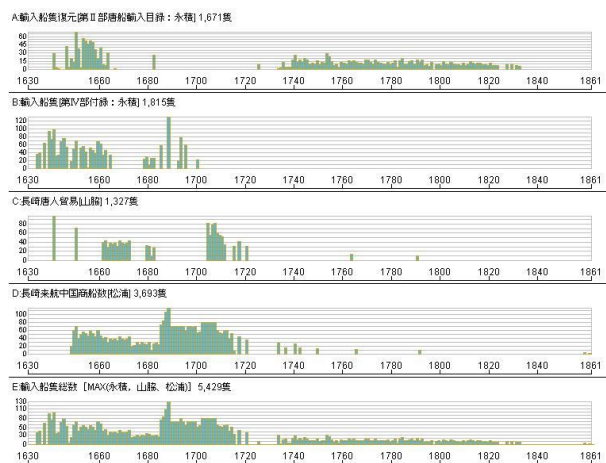


図 1 『歴代宝案』咨文と執照の発行履歴

(2) 東南アジア産陶磁器と海域アジアのネットワーク分析における考古発掘資料をいかによむか—「産地」対「出土地」によるネットワーク分析の結果を示した。考古発掘資料には、遺物の種類、産地、出土遺跡、出土年代などの項目がある。情報学の視点でそれらの資料をみれば、資料の各遺物（表形式データにおける各レコード）に対して、出土遺跡、産地の項目から「産地」対「出土地」の関係が成り立つ、とみえる。また、出土年代を時間軸として考えれば、時空間という 3 次元空間上で各遺物の関係と時間的推移が俯瞰でき、さらに遺物の種類を主題軸と考えれば、4D-GIS 空間上でモノのくうごき>がみえる。そうした着想からのネットワーク分析をすすめた。

(3) 近世では、オランダ東インド会社文書の日本関連記録を調査し、それにもとづいて復元した『唐船輸出入品記録数量一覽 1637-1833 年』(永積洋子)から、交易の実態がよみとれた。もうひとつの資料は、山脇悌二郎による『長崎の唐人貿易』である。「鎖国」下における唐船の出帆地、唐船による輸入品目の年次別推移と出帆地、暹羅からの蘇木等染料類の輸入、薬種にみる民衆生活と直結していた唐船貿易などが明らかになり、さらに松浦章による『江戸時代唐船による日中文化交流』を加えた 3 つの文献資料でマッピングをすすめた。そして、唐船貿易における来

航船隻数の HuTime によるマッピング結果から永積、山脇、松浦による長崎来港船隻数と操船隻数の差異や特徴がよみとれた (図2参照)。



上から唐船輸入目録、唐船輸入品年度別目録 (永積)、長崎唐人貿易 (山脇)、『長崎実録大成』等 (松浦)
 図2 唐船来航記録の重層化と時系列分析

5. 主な発表論文等

①雑誌論文 (12件)

[1] 村上 衛. 「東アジア」を超えて——近世東アジア海域史研究と「近代」『歴史学研究』No.906, pp.35-44, 2013.

[2] 村上 衛. 「中国経済の発展と19世紀清朝のふたつの危機」秋田茂編著『アジアからみたグローバルヒストリー——「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』ミネルヴァ書房, pp.172-193, 2013.

[3] 真栄平房昭. 「房昭琉球使節の唐旅と文化交流」河添房江・皆川雅樹編『唐物と東アジア』勉誠出版, pp.174~194, 2012.

[4] 真栄平房昭. 「琉球の中国貿易と輸入品—海を越えた唐紙—」『一八世紀日本の文化状況と国際環境』思文閣出版, pp.439~456, 2012.

[5] 貴志俊彦. 「植民地初期の日本-台湾間における海底電信線の買収・敷設・所有権の移転」『東洋史研究』第70巻第2号, pp.105~139, 2011.

②学会発表 (10件)

[1] 村上 衛. 「海の近代中国——福建人の活動とイ

ギリス・清朝」社会経済史学会近畿部会・経営史学会, 2014年1月11日, 関西大学, 2014.

[2] Mamoru Shibayama. "An Examination of the East-West Cultural Corridor. Paper presented at the First SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology, 7-10 May, 2013, Burapha University, Chonburi, Thailand, 2013(5).

[3] Mamoru Shibayama. "The East-West Cultural Corridor Project: planning for the future" Proceedings of PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013, Kyoto University, 2013(12).

③図書 (7件)

[1] 荒野泰典・上白石実・及川将基「幕末維新期日米条約の原本調査—米国国立文書館での調査とその成果—」同上, P194~220, 2013.

[2] 荒野泰典・村井章介「地球的世界の成立 (通史)」荒野泰典・石井正敏・村井章介編『日本の対外関係5』吉川弘文館, pp.1~51, 2013.

[3] 荒野泰典「海禁・華夷秩序体制の形成」同上, pp.125~156, 2013.

[4] 荒野泰典「江戸幕府と琉球使節」『むろのつ』Vol.20, 「嶋屋」友の会, pp.15~24, 2013.

[5] 荒野泰典「四つの口」の女と男—近世日本の国際関係における異民族間の異性関係の諸相—」弘末雅士編『越境者の世界史—奴隷・移住者・混血者—』春風社, pp.167-191, 2013.

[6] 村上 衛. 『海の近代中国』名古屋大学出版会, 676頁, 2012.

[7] 柴山 守. 『地域情報マッピングからよむ東南アジア』勉誠出版, 317頁, 2012.

④その他 (3件)

[1] 貴志俊彦. 「都大学人文研所蔵「華北交通株式会社写真」の現状とその利用をめぐって」人間文化研究機構現代中国地域研究京都大学拠点, 定例研究会, 2012.

6. 研究組織

(1)研究代表者

柴山 守 (SHIBAYAMA, Mamoru) 京都大学・地域研究統合情報センター・研究員、研究者番号：10162645

(2)研究分担者

貴志俊彦 (KISHI, Toshihiko) 京都大学・地域研究統合情報センター・教授、研究者番号：10259567

真栄平房昭 (MAEHIRA, Fusaaki) 神戸女学院大学・文学部・教授、研究者番号：50183942

村上 衛 (MURAKAMI, Ei)、京都大学・人文科学研究所・准教授、研究者番号：50346053

荒野泰典 (ARANO Yasunori)、立教大学・大学院文学研究科・教授、研究者番号：50111571

(3)連携研究者

桃木至朗 (MOMOKI, Shiro)、大阪大学・大学院文学研究科・教授、研究者番号：40182183

石川亮太 (ISHIKAWA, Ryota)、佐賀大学・経済学部・准教授、研究者番号：00363416